

講義コード	515106101	
講義名	特別支援教育入門 AB	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科（短大）	
講義開講時期	前期	
基準単位数	1	
時間	0.00	
代表曜日	金曜日	
代表時限	1 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
専任教員	矢野 善教	指定なし
専任教員	教務委員会（短大）	指定なし

授業の概要

【授業の概要】

現在、「インクルーシブ保育」という障害児と健常児が共に生活する保育が主流となりつつある。そこで、保育者には障害の知識や障害児に対する関わり方を学ぶ必要がある。そこで、本科目では、障害の概念から障害種別の理解と支援方法、さらには職員間連携・地域連携・小学校との連携と幅広い知識とかがわり方を習得する。

【授業の方法】

①プレゼンテーションの方法

授業では、板書とICTを活用する。

②授業形態

講義形式、グループワーク、実習、実技、実験、学外実習、少人数ゼミ、輪読など

1～3回目は講義形式で行い、4回目以降はグループ発表を中心に進め、発表後補足説明を行う。

③アクティブラーニングの有無

・学生によるプレゼンテーション…担当章をまとめてグループ発表を行う。

・小テスト…毎回、前回の4問と今回の1問を出題する。

④課題に対するフィードバックの方法

採点した小テストを集計後、学期末テスト前に返却する。

本授業では、「理解し・要約し・発表する」ことを通して、障害児への支援を主体的に考えてもらいます。

したがって、単に講義を聞いていればよいのではなく、自ら積極的に学び、参加する姿勢が求められます。

基本的な各回の流れとしては、「復習テスト」→「発表」→「まとめ」という順序で進めていきます。

授業の到達目標及びテーマ

2007年に特別支援教育が始まり、教育の現場では障害児教育へのニーズが非常に高くなってきています。それともなっていて、幼稚園や保育所でも障害児のニーズに合った保育を提供することが求められるようになってきました。

保育の現場に出てからは、みなさんが自分自身で、障害を抱える子どもの支援をしていく必要があります。したがって、本授業では個別の保育計画を作成する上で必要になってくる基礎的

な知識について学びます。

到達目標については、学習成果における①保育者観，②知識・技能，③実践力と実務能力，④人間性と協働性が該当します。特に，②③を重視します。

本科目の幼児教育科のディプロマ・ポリシーは、【知識・理解】における「1. 諸領域の学問分野における基礎的知識を持っている」、【技能】における「3. 情報や知識を複眼的、論理的に分析し、自分の意見を口頭や文章で的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身に付けている」「4. 幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を修得している」、【態度・志向性】における「6. 自学自習・自主自立を実践できる」「7. 他者と協調・協働して行動できる。また、目標の実現のためにリーダーシップを発揮できる」である。

授業計画表

回	内容
第1回	オリエンテーション（授業の進め方）
第2回	特別支援教育・障害児保育の概論
第3回	特別支援教育・障害児保育の基本
第4回	障害の種別と援助の技術や方法
第5回	知的障害の特徴と教育・保育での支援
第6回	自閉症スペクトラム障害の特徴と教育・保育での支援
第7回	注意欠如・多動性障害の特徴と教育・保育での支援
第8回	限局性学習障害の特徴と教育・保育での支援
第9回	言語障害の特徴と教育・保育での支援
第10回	支援計画の作成と記録及び評価
第11回	困難な状況をかかえる家族とその支援
第12回	障害児、その他の特別な配慮を必要とする子どもの課題
第13回	地域の専門機関や関係機関との連携
第14回	多様な支援を必要とする乳幼児、児童及び生徒の把握や支援
第15回	まとめ

授業時間外の学修

予習：30分

毎回、授業の前に授業計画に示した内容について、教科書で該当する箇所の予習をして授業に臨んでください。必ず事前に準備学習（予習）やテキストの下読みをして授業に臨んでください。

発表担当班の人は、教科書の内容をレジュメにまとめて発表してください。

復習：15分

授業時に配布したプリントや該当章を読み返し、次回の小テスト対策をしてください

実務経験の有無

実務経験のある教員が担当する 例：企業団体の実務経験者・税理士・学校現場教員経験者・カウンセラー等

ディプロマポリシーとの関連

ディプロマポリシー ①③ 自律学習能力の修得	ディプロマポリシー ② 専門的知識・技術の修得	ディプロマポリシー④ 分析・論理構成・表現力の修得	ディプロマポリシー⑤⑥ 問題解決能力・協働性の獲得
------------------------------	-------------------------------	------------------------------	------------------------------

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
理解度	授業内容を100%理解しており、授業内容を超えた自主的な学修が行っていると認められる	授業内容をほぼ95%程度理解しており、自主的な学修も少し行っていると認められる	授業内容の理解はほぼ75%程度であることが認められる	授業内容の理解は70%以下と判断できるため、レポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている
調査する力 (予習も含む)	自ら進んで予習範囲を越えて調べるとともに、それを他者に説明することができる	定められた予習範囲について自分の力で調べることができる	定められた予習範囲について調べてはいるが、その理解にはあいまいな点が多く、不十分な部分がある	定められた予習範囲について調べられない。もしくは内容が不十分である
レポート力 (復習も含む)	テーマについて、授業で紹介した方法、もしくはそれに類する独自の手法を使った分析が十分になされている	テーマについて、授業で紹介した方法で分析が十分になされている	テーマについて、授業で紹介した方法で分析がなされている	テーマについての分析がなされていない

成績評価法 (表形式)

	評価基準	備考
定期試験	40%	
小テスト等	30%	
成果発表	20%	
授業への貢献度	10%	
レポート		
その他		

課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題 (レポート等) について	模擬授業、プレゼン、発言等について
授業の冒頭で解説、講評する		

ICTを活用した双方向型授業の内容

クリッカー、アンケート、小テスト等
ビデオ会議システム
チャット
掲示板の活用

メール等の活用

アクティブラーニングの割合

総授業時間数の30～60%程度のアクティブラーニングである

アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
グループワークのディスカッションやディベート (議論の場と時間) 小テストや授業内レポートの活用 調べ学習・調査の活用		

教科書

咲間まり子（編著）「特別支援教育・障害児保育入門」建帛社

野呂文行・高橋雅恵（監修）「保育者ができる気になる行動を示す幼児への支援」学苑社

参考書

適宜紹介します。

SDGsとの関連

3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに

特記事項等

1) 実務経験のある教員

教育相談およびスクールソーシャルワークの経験のある教員（公認心理師・社会福祉士）が担当します。

2) 科目のナンバリング

SUN2305

3) その他の特記事項

なし

研究室（訪問先等）

中央研究棟 2階 220 研究室

直接、研究室を訪ねてください。

電話番号

028-670-3680（直通）

授業用E-mail

yoshinori@sakushin-u.ac.jp

成績評価法

授業での課題への取り組み姿勢や発表，期末試験の成績等によって評価します。

- ① 平常点 10%（授業態度など）
- ② 発表 20%（プレゼンテーションの際の発表内容）
- ③ 小テスト 30%（小テストの成績）
- ④ 期末テスト 40%（授業内容の理解度評価）

毎回、授業の始めに前回の内容に関する小テストを行います。

小テストの結果も成績評価に含まれます。

必ず、予習・復習して授業に臨んでください。